

近江出土の渡来銭貨（2）

小島孝修

目次

1. はじめに
2. 集成の方法と条件
3. 近江における渡来銭の集成結果
4. 渡来銭出土遺跡の状況などについて
5. おわりに

— 論文要旨 —

10年前に本『紀要』第27号に掲載した「近江出土の渡来銭貨」（小島2014）の続編である。日本列島に、おもに中世（鎌倉時代・室町時代）に渡来（流入・搬入・輸入）してきた銭貨の滋賀県域＝近江での出土事例について、前稿で集成したものに平成25年（2013）以降に公表されたものも加えて集成した。その結果、出土遺跡は近江のほぼ全域に分布し、出土枚数は69種合計9,924枚に上ることがわかった。銭種により出土枚数には差があるが、それは全国的な傾向とほぼ同じであることを再確認した。集成資料には、再分類作業が行われた、近江唯一の大量出土銭である野洲市虫生館遺跡出土資料や、火葬場や墓地などの埋葬関連遺構が多数検出されてそれらに伴って渡来銭が多数出土した竜王町堤ヶ谷遺跡出土資料などが含まれる。また、近江で数枚程度しか見つかっていない希少銭が、両遺跡出土資料などに見出されたので、それらの拓本・写真を掲載した。とくに大津市坂本遺跡出土の希少銭については、実見してその拓本・写真を掲載することができた。このほか、埋葬関連遺構・地鎮遺構といった特徴的な出土状況を、今回の集成でもいくつか見出すことができたので、それらについても取り上げて出土状況の図・写真を示した。

——— キーワード

渡来銭 中世 北宋 虫生野館遺跡 大量出土銭 堤ヶ谷遺跡 希少銭 埋葬関連遺構 地鎮遺構